

### 第3章

## 新生国家南アフリカ対アジア経済関係の変容とその意味

### はじめに

アフリカ、とりわけ南アフリカ（以下、南ア）とアジア開発地域<sup>(1)</sup>との経済関係が、国際経済研究のなかで取り上げられることはこれまであまりなかった<sup>(2)</sup>。「経済制裁」という長年にわたる南ア経済の国際社会からの分断の歴史が、そうした経済研究を阻害していた面を否定することはできない。しかし、最大の要因は、両地域経済が対外経済交流の中心を長く先進地域経済においてきた結果、相対的にマージナルな存在としてしか互いを位置づけてこれなかった、まさにこれまでの状況にあったといえる。本章の随所で指摘するように、このことはアジア各国の政府統計の多くが、南ア、ひいてはアフリカ地域との経済関係（貿易、投資、経済協力）そのものを「世界の残余」の部分として取り扱ってきたことにも強く反映されている。いずれにせよ本章の分析過程においてもこうした統計的制約がかなりの範囲でネガティブに作用している。

それでは、こうしたこれまでの両地域経済の関係は今後とも固定的に推移していくのであろうか。本章の目的や意義も、すべてここに集約されるといえる。すなわち、民主化を達成することによって国際社会に復帰を果たした南ア経済と、急速な経済発展を遂げてきたアジア開発地域との経済関係の推移を、貿易統計データの吟味を中心に整理検討することである。より具体的には、南ア民主化の前後における対アジア経済関係の変容の一環としての国

際分業関係の変化について考察しようとするものである。

第1節では、まず南アの貿易構造とその推移を地域別に分析することで、アジア開発地域と南ア経済について検討する。とくにここでは、民主化以前、以後の南アの貿易パフォーマンスを基準に、南ア民主化の貿易面での影響が、1990年以降と94年以降という二つの変節点を経ていることを明らかにする。

続く第2節では、アジア各国を対南ア貿易の推移という観点から、三つのグループに分類し、対南ア貿易をめぐる各グループの特徴について言及していく。そこでは貿易相手国としての相対的な重要性の変化という観点から、南ア民主化にともなう対アジア貿易の伸長が各国一様に現れているわけではないということを明らかにする。

第3節では、商品別分業関係という観点から、南ア民主化後のアジア各国との分業関係について検討する。より具体的には、補完的分業関係の構築という視点から、貿易相手国としての重要度の高まりの意味を考える。とくにインド、パキスタンなど輸出入両面において貿易を伸長させている国々の類似性と、シンガポール、マレーシア、中国などの特徴的な分業関係について検討している。

## 第1節 南ア貿易の歴史的変容

本節では、民主化以前から現在に至るまでの南アの地域別輸出入構成の推移と商品別輸出入額について、まず整理する。資料としては、時間的・空間的な継続性や網羅性を考慮して、地域別貿易に関してはIMF統計<sup>(3)</sup>、商品別貿易については国連統計<sup>(4)</sup>を用いた<sup>(5)</sup>。

### 1. 南ア地域別輸出入構成の推移

まず南アの地域別貿易額とその推移についてみてみよう。表1 a および1

bは1970年から97年までの南アとアジアを含む世界の開発地域経済との貿易について、IMF統計に若干の修正を加えまとめたものである<sup>(6)</sup>。これをみて明らかかなことは、70年代を通じて一貫して増大していた貿易量が、80年代になって経済制裁も働いて、激減(80年と85年の比較では輸出-36.1%、輸入-43.6%)していることである。実際、南アの貿易量が80年時点の水準をほぼ取り戻すのは輸出入ともに90年代に入ってからのことであり、この間、南ア貿易は停滞していた。注目すべきは他の地域とは異なり、全体からすれば微量ながらもアジア地域への輸出入が80年代を通じ増大していることである。後述するようにアジア開発地域に関しては、香港と台湾、スリランカへの輸出が堅調であったことがその背景にある。

しかし、表1 a, 1 bの「その他・不詳」の項目の大きさをみれば明らかのように、輸出でいえば1970年代後半からのおよそ40%以上、輸入でいえば80年代以降のおよそ20%前後が、相手先のはっきりしない貿易ということである。本章の目的からして、その実際の中身や理由について、どれほど執着すべきかは定かではないが、仮にその明確な相手先が把握できたならば、経済制裁期における南ア貿易の実像もかなり様変わりするかもしれない。

つぎに地域別構成比についてみてみよう。表2 a, 2 bは、表1 a, 1 bから年ごとの貿易額の地域別構成比を開発地域についてみたものである。その基本的な構造について概観するならば、少なくともIMF統計でみるかぎり、南アにとっての輸出市場としての先進地域の重要度は、徐々に低下し、とくに民主化交渉開始以後はアフリカについては13.2% (1997年)、アジアについては14.2% (97年)と、周辺および高度成長地域経済の重要性が着実に高まりつつあるということである。同様にアジア地域については、民主化以後、輸入先地域としてもその重要度を高めつつあることもわかる (97年には15.3%)。

しかし、輸入構成比をみるかぎり、先進地域からの輸入は、依然として南ア地域別構成比の3分の2以上を占めており、南アの貿易、ひいては対外経済関係が、民主化後も基本的には先進地域経済に大きく依存していることに

表1a 南アフリカ地域別輸出入額の推移 (1970～97年)

(単位：100万米ドル)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
世界	2,175	8,959	25,684	16,405	24,753	27,837	30,417	24,748	25,411	31,771	29,713	32,080
先進地域	1,600	4,296	10,661	7,031	10,628	11,413	11,513	9,525	10,096	13,838	12,532	14,091
北米	1,221	770	2,392	1,467	1,966	1,721	1,743	1,199	1,381	2,382	1,758	2,436
オセアニア	21	45	121	118	134	68	71	167	216	318	416	215
ヨーロッパ	1,105	2,816	6,597	4,167	6,872	7,958	7,964	7,201	7,328	8,827	8,794	9,002
日本	253	665	1,551	1,279	1,656	1,666	1,735	958	1,171	2,311	1,613	2,159
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	279
開発地域	458	946	2,606	1,961	3,166	4,364	5,636	5,770	6,222	8,609	9,320	10,772
アジア	369	573	1,412	1,721	1,496	2,178	2,377	2,063	2,402	2,970	3,999	4,249
アフリカ	49	258	678	843	1,141	1,645	2,674	2,176	2,478	4,013	3,502	4,548
オセアニア	0	0	3	3	4	5	2	0	1	1	0	0
ヨーロッパ	5	6	48	169	133	38	67	422	242	421	337	397
中東	6	23	95	120	206	246	244	736	545	530	802	775
中南米	29	82	370	105	186	252	272	362	537	653	661	783
その他	0	0	0	0	0	0	0	11	17	21	19	20
その他・不詳	117	3,717	12,417	7,413	10,959	12,060	13,268	9,453	9,093	9,324	7,801	7,217

(出所) IMF, *Direction of Trade Statistics*, 各年版。ただし, 1997年の数値に関してのみ, DOT, Quarterly, 1998-1q. を使い, その際, 第3四半期までの数をもとに暫定的に推計した。

表1b 南アフリカ地域別輸出入額の推移 (1970～97年)

(単位：100万米ドル)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
世界	3,566	7,591	18,327	10,338	17,435	17,664	18,980	18,026	21,838	25,250	26,863	26,755
先進地域	3,034	6,866	11,844	7,638	12,400	11,646	11,780	13,021	16,828	17,955	19,165	17,767
北米	692	1,451	2,707	1,549	2,338	2,206	2,510	2,541	3,835	2,909	3,688	3,381
オセアニア	92	130	2,139	1,128	1,151	151	168	234	3,329	2,526	3,708	3,781
ヨーロッパ	1,940	4,445	7,329	4,933	8,198	7,650	7,374	7,968	10,441	12,037	12,556	11,600
日本	1,310	840	1,669	1,028	1,686	1,639	1,728	2,278	2,223	2,483	2,202	2,005
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
開発地域	489	646	1,101	927	1,774	2,424	3,253	3,323	3,688	5,972	7,361	8,390
アジア	184	344	371	268	461	607	692	449	3,602	7,744	7,721	8,777
アフリカ	256	210	460	455	890	1,359	1,919	2,268	2,219	3,958	3,584	4,083
オセアニア	1	1	0	0	2	0	0	2	2	2	2	2
ヨーロッパ	9	6	42	26	22	30	53	142	147	294	169	180
中東	9	27	62	51	103	91	124	180	223	283	260	2,600
中南米	30	58	166	197	336	337	465	280	489	683	672	749
その他	0	0	0	0	0	0	0	3	6	8	8	1
その他・不詳	43	79	5,382	1,763	3,261	3,594	3,947	1,682	1,322	1,323	337	598

(出所) 表1aに同じ。

表2a 南アフリカ地域別輸出構成比の推移 (1970~97年)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
世界	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先進地域	73.6	48.0	41.5	42.9	42.9	41.0	37.9	38.5	39.7	43.6	42.4	43.9
開発地域	21.1	10.6	10.1	12.0	12.8	15.7	18.5	23.3	24.5	27.1	31.4	33.6
アフリカ	17.0	6.4	5.5	4.4	6.0	7.8	7.8	8.3	9.5	9.3	13.5	13.2
アジア	2.3	2.9	2.6	5.1	4.6	5.9	8.8	8.8	9.8	12.6	11.8	14.2
オセアニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヨーロッパ	0.2	0.1	0.2	1.0	0.5	0.1	0.2	1.7	1.0	1.3	1.1	1.2
中東	0.3	0.3	0.4	0.7	0.8	0.9	0.8	3.0	2.1	1.7	2.7	2.4
中南米	1.3	0.9	1.4	0.6	0.8	0.9	0.9	1.5	2.1	2.1	2.2	2.4
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
その他・不詳	5.4	41.5	48.3	45.2	44.3	43.3	43.6	38.2	35.8	29.3	26.3	18.6

(出所) 表1aに同じ。

表2b 南アフリカ地域別輸入構成比の推移 (1970~97年)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
世界	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
先進地域	85.1	90.4	64.6	73.9	71.1	65.9	62.1	72.2	77.1	71.1	71.3	66.4
開発地域	13.7	8.5	6.0	9.1	10.2	13.7	17.1	18.4	16.9	23.7	27.4	31.4
アフリカ	5.2	4.5	2.0	2.0	2.6	3.4	3.6	2.5	2.8	2.9	2.7	2.9
アジア	7.2	2.8	2.5	4.4	4.9	7.7	10.1	12.6	10.2	15.7	13.3	15.3
オセアニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヨーロッパ	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	0.2	0.3	0.8	0.7	1.2	0.6	0.7
中東	0.3	0.4	0.3	0.5	0.6	0.5	0.7	1.0	1.0	1.1	8.2	9.7
中南米	0.8	0.8	0.9	1.9	1.9	1.9	2.4	1.6	2.2	2.7	2.5	2.8
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他・不詳	1.2	1.0	29.4	17.1	18.7	20.3	20.8	9.3	6.1	5.2	1.3	2.2

(出所) 表1aに同じ。

変わりはない。すなわち、先述した相手先が不明である輸出規模の大きさも考慮するならば、開発地域との貿易関係の高まりがそのまま先進地域経済との貿易に代替するとはいえないのである。しかしながら、地域別にみた南ア貿易構造が開発地域、とくにアジアとアフリカに関して着実に変化しつつあることは確かである。このことを念頭に、つぎに民主化後の対アジア貿易の推移についてみることにしよう。

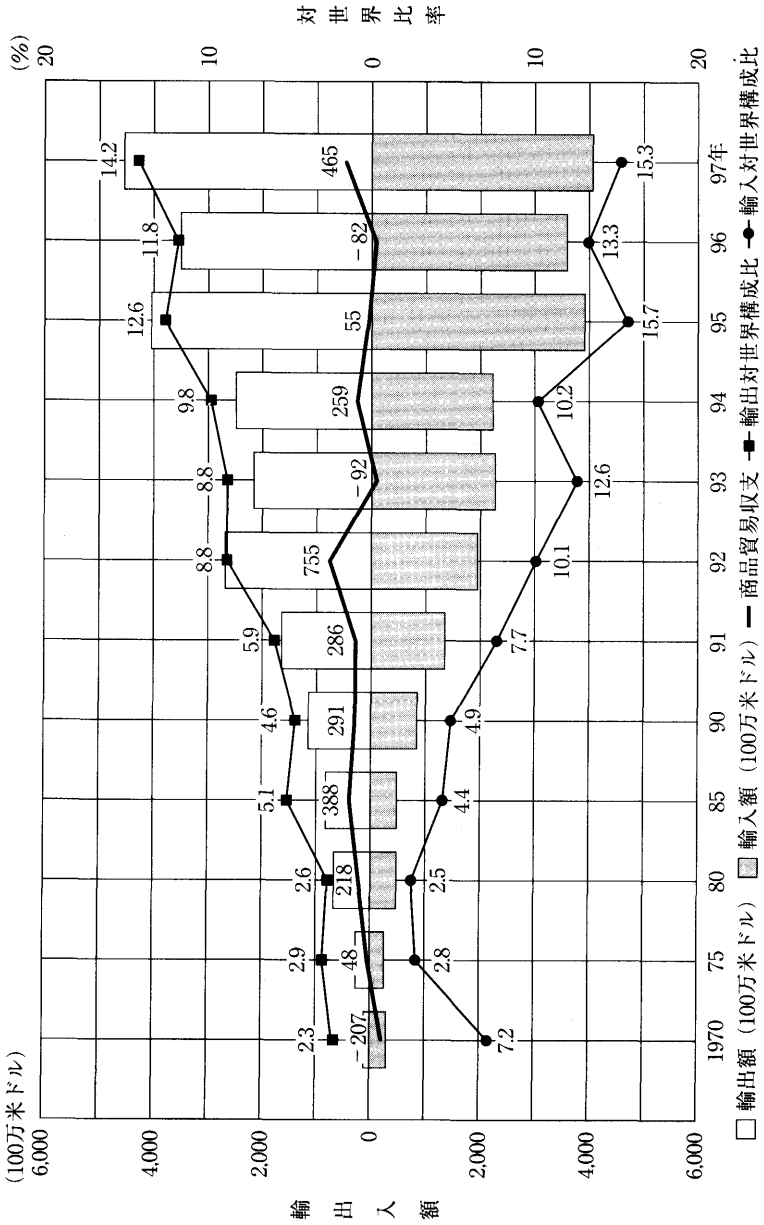
## 2. 民主化の進展と対アジア貿易の推移

図1は、前掲のIMF統計から南アの対アジア開発地域貿易(以下、対アジア貿易)額の推移についてみたものである。上半分のグラフは輸出額(白色棒)と南ア輸出額に占める対アジア開発地域の輸出シェア(折れ線)を示し、下半分は輸入額(灰色棒)と輸入シェア(折れ線)をそれぞれ示している。中央に位置する数値(100万ドル単位)付きの折れ線は、各年の対アジア商品貿易収支(輸出額-輸入額)の動きである。

ここからいくつかの特徴をみてとるならば、第1に、南アにとっての対アジア貿易は1970年代後半より、少なくとも92年までは、主として出超気味に推移してきたということである。しかし、同時期に南ア貿易全体が大幅な黒字(出超)基調で推移してきた(表1a, 1b)ことを考えると、このこと自体は、アジア開発地域が輸入先市場としてよりも輸出先市場として重要であったことを意味するわけではない。輸出入シェアに占めるアジア貿易の推移をみるならば、ほぼ同レベルか、むしろ輸入シェアが輸出シェアを各年とも若干上回っているからである。

第2に、1990年の民主化交渉開始から現在に至るまでの対アジア貿易は急速に伸長したといえるが、貿易額自体は、その後93年、94年の2年間伸び悩んでおり、93年の輸出に関してはドルベース<sup>(7)</sup>とはいえ、前年比18.6%も減少している。その後、95年になって再び貿易量は絶対額で急増し、輸出入シェアともに10%を超える新たな水準に達している。このことは民主化による対

図1 南ア対アジア貿易の推移



(出所) 表1aに同じ。

アジア貿易の増大が、90年と94年という明らかに二つの段階を経ていることを如実に表している。もし仮に、南ア民主化をアパルトヘイトの廃止(90年)と全人種選挙の実施(94年)という二つの時期に区切るならば、一連の貿易量の増減と基本的に一致することになる。

それでは南ア民主化の影響は、アジア開発地域諸国に全く同等に作用したのであろうか。つぎに、国別の貿易シェアの変化をみながらこのことについて検討してみよう。

## 第2節 対アジア貿易の量的拡大と国別変化

表3 aおよび3 bは、表1 aと同様IMF資料から南アの対アジア主要国別貿易額の推移についてみたものである。必ずしも完全な資料とはいえないが<sup>(8)</sup>、一応の傾向をみてとることはできる。ここでは、これらアジア各国を、先述した民主化以前、以後についての南アとの貿易量とその変化から大きく三つのグループに分類してみよう。

### 1. 伝統的貿易国グループ

第1のグループは、民主化以前より南アと貿易関係を維持してきた「伝統的貿易国」である。具体的には、香港、台湾、韓国がこれにあたる。これら3カ国はアジアNIEsとして、いち早く工業化を進めた結果、南ア貿易全体においても常に上位を占める伝統的に貿易量の大きい国々である。民主化をめぐるこのグループの特徴は、元々の貿易量が大きいため増加率という面では、後述する南アジアや東南アジアの一部の国に比べれば、決して顕著な変化を示したとはいえない点である。しかし、南アの対アジア貿易における量的な重要度からすれば、先進地域経済同様、依然中心的な位置を維持している。

表4 a, 4 bは、IMF統計では十分把握しきれないこのグループ(とくに台



表3a 南ア対アジア主要国輸出入額の推移 (1970~97年)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
アジア	49	258	678	843	1,141	1,645	2,674	2,176	2,478	4,013	3,502	4,548
韓国	1	16	74		15	15	499	390	492	1,108	663	1,195
台湾	1	68		129	104	515	859	663	512	929	189	536
中国								183	165	639	379	497
香港	34	66	290	284	380	365	499	521	421	557	603	285
シンガポール								114	130	219	46	49
マレーシア	1	2	20	22	56	80	66	44	42	51	163	281
スリランカ								8	97	185	163	281
インドネシア						4	4	28	137	155	171	227
フィリピン								36	79	91		
タイ							20	50	44	60		
その他・不詳	12	106	294	408	601	666	727	123	314	19	1,288	1,478

(単位：100万米ドル)

(出所) 表1aに同じ。

表3b 南ア対アジア主要国輸出入額の推移 (1970~97年)

	1970	1975	1980	1985	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
アジア	256	210	460	455	850	1,359	1,919	2,268	2,219	3,958	3,584	4,083
韓国	4	26	147	144	147	382	538	624	1	849	423	623
台湾	27	49	131	72	267	493	556	340	412	842	572	728
中国								307	361	634	327	591
香港	2	11	33		14	14	295	270	304	467	327	327
シンガポール								241	280	459	13	15
マレーシア	14	18	17	12	18	10	12	11	12	15	252	291
スリランカ								178	211	272	113	124
インドネシア						1	5	58	114	269	84	124
フィリピン							8	23	249	54	113	124
タイ								133	157	13	1,347	1,384
その他・不詳	209	106	279	227	418	459	505	33	43	13	1,347	1,384

(単位：100万米ドル)

(出所) 表1aに同じ。

表4a 対アジア主要4カ国との貿易（輸出）

（単位：100万米ドル）

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
アジア(IMF)	1,645	2,674	2,176	2,478	4,013	3,502	4,548
台湾(IMF)	515	859	663	512	929		
台湾(TS)	716	1,136	1,320	912	1,022	954	1,020
台湾(SA)	755	754	664	514	699	876	
中国(IMF)			183	165	639	189	536
中国(CS)			412	361	688	664	
中国(SA)	174	175	184	165	289	223	
香港(IMF)	365	499	521	421	557	603	497
香港(SA)	492	516	536	422	546	716	
韓国(IMF)	15	499	390	492	1,108	663	1,195
韓国(SA)	513	349	391	495	578	794	
不詳(IMF)	666	727	16	45	19	1,288	1,478

（出所） IMF IMF, *Direction of Trade Statistics, Yearbook*, 各年版 / (TS) 台湾行政院『進出口貿易統計月報』各巻各号 / (CS) 中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』各年版 / (SA) South Africa Republic, *Foreign Trade Statistics*, Vol. I, 1992, 1994, 1996.

表4b 対アジア主要4カ国との貿易（輸入）

（単位：100万米ドル）

	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
アジア(IMF)	1,359	1,919	2,268	2,219	3,958	3,584	4,083
台湾(IMF)	382	538	624	1	849		
台湾(TS)	498	581	596	711	848	815	760
台湾(SA)	665	620	624	733	890	996	
中国(IMF)			307	361	634	572	728
中国(CS)			246	361	633	683	
中国(SA)	52	229	307	361	509	682	
香港(IMF)	493	556	340	412	842	423	623
香港(SA)	344	310	340	402	447	503	
韓国(IMF)	14	295	270	304	467	537	591
韓国(SA)	256	248	270	305	411	641	
不詳(IMF)	459	505	33	43	13	1,347	1,384

（出所） 表4aに同じ。

湾)の対南ア貿易量の大きさについて、南ア側統計<sup>(9)</sup>(表ではSA)と台湾側統計<sup>(10)</sup>(同TS)を補足してみたものである。同様にここでは、後述する第2グループに分類した中国についても現地統計<sup>(11)</sup>の数値を補足してある。これをみると台湾への輸出量は、台湾側統計ではIMF統計よりも、もう少し多いことになっているが、南ア側統計では、これを確認することはできない。IMF統計とこれら現地統計との誤差は、再輸出の定義などによるのであろうが、これら現地統計との不整合性とその理由については、依然はっきりしないものがある。その意味では、IMF統計利用に際しての留保点にとどめておくべきだろう。

つぎにあげる第2グループに分類した中国現地統計<sup>(12)</sup>についても、貿易量の増大は確認できるもののIMF統計との整合性はあまりよくない。この南ア側統計によれば、1991年時点において、IMF統計では明らかでない1億7000万ドルの輸出と5200万ドルの輸入を中国との間で行っていたことになる。

## 2. 新興貿易国グループ

第2のグループは、民主化後著しく南ア貿易を伸長させてきている「新興貿易国」である。その意味では、南ア民主化による対アジア経済関係の変化が典型的にみられる諸国でもある。具体的には、マレーシア、シンガポールをはじめとする東南アジア諸国と、インド、パキスタン、そして中国がここに分類される。これら諸国の対南ア貿易の特徴としては、少なくとも公式には、民主化以前には南アと本格的な貿易関係をほとんど結んでこなかったということである。当然、香港、台湾などの第1グループに比べれば、その絶対量は相対的にはまだ若干劣るものの、民主化以後の爆発的な貿易量の急増は、第1グループに比して衝撃的ですからあり、将来的に逆転する可能性すら含んでいるといえる。

表5 a, 5 bは、IMF統計と表4 a, 4 bで用いた中国、台湾、南ア側資料を基に1991年から96年に至るまでに、これら諸国がいかに対南ア貿易を相

表5a 南ア対アジア主要国との相互貿易シェアの推移（輸出）

国名	項目	1991	1992	1993	1994	1995	1996
パキスタン	対南ア輸入シェア指数	100	469	393	1,640	2,485	3,108
	南ア対パキスタン輸出シェア指数	100	477	497	1,893	2,957	4,186
インド	対南ア輸入シェア指数	100	79	332	1,359	1,458	2,067
	南ア対インド輸出シェア指数	100	84	416	1,957	2,160	3,545
マレーシア	対南ア輸入シェア指数	100	48	113	1,034	1,429	1,537
	南ア対マレーシア輸出シェア指数	100	48	158	1,834	2,652	3,079
インドネシア	対南ア輸入シェア指数	100	155	120	235	365	460
	南ア対インドネシア輸出シェア指数	100	150	148	318	502	715
タイ	対南ア輸入シェア指数	100	272	249	164	215	214
	南ア対タイ輸出シェア指数	100	269	342	260	355	385
シンガポール	対南ア輸入シェア指数	100	78	85	71	137	189
	南ア対シンガポール輸出シェア指数	100	78	123	120	227	352
韓国	対南ア輸入シェア指数	100	68	74	77	68	84
	南ア対韓国輸出シェア指数	100	62	86	106	99	145
フィリピン	対南ア輸入シェア指数	100	83	75	58	48	56
	南ア対フィリピン輸出シェア指数	100	92	124	113	93	142
香港	対南ア輸入シェア指数	100	85	79	53	58	74
	南ア対香港輸出シェア指数	100	96	123	94	97	136
中国	対南ア輸入シェア指数	100	80	65	52	80	59
	南ア対中国輸出シェア指数	100	92	119	104	146	120
台湾	対南ア輸入シェア指数	100	87	72	50	56	71
	南ア対台湾輸出シェア指数	100	91	99	75	81	109
スリランカ	対南ア輸入シェア指数	100	87	51	39	36	46
	南ア対スリランカ輸出シェア指数	100	90	75	69	61	77
アジア全体	対南ア輸入シェア指数	100	143	104	101	132	113
	南ア対アジア輸出シェア指数	100	149	149	165	214	199

(出所) Republic of South Africa, *Foreign Trade Statistics*, Vol. I, 1992, 1994, 1996. およびIMF, *Direction of Trade Statistics, Yearbook*, 各年版, より筆者作成。

対的に急増させ、その重要度を高めてきたかについてみたものである<sup>(13)</sup>。各国項目上段「対南ア輸入（出）シェア指数」は、アジア各国の対世界貿易全体に占める南ア貿易のシェアを、91年を100とした場合の指数として、示してある。項目下段「南ア対各国輸出（入）シェア指数」は南アの対世界貿易に占め

表5b 南ア対アジア主要国との相互貿易シェアの推移（輸入）

国名	項目	1991	1992	1993	1994	1995	1996
中国	対南ア輸出シェア指数	100	371	461	410	471	622
	南ア対中国輸入シェア指数	100	408	577	559	682	860
インド	対南ア輸出シェア指数	100	114	136	265	369	536
	南ア対インド輸入シェア指数	100	118	163	304	450	660
インドネシア	対南ア輸出シェア指数	100	100	113	135	159	197
	南ア対インドネシア輸入シェア指数	100	109	140	151	173	221
マレーシア	対南ア輸出シェア指数	100	124	152	145	133	153
	南ア対マレーシア輸入シェア指数	100	137	204	200	201	229
パキスタン	対南ア輸出シェア指数	100	71	114	133	154	182
	南ア対パキスタン輸入シェア指数	100	74	114	121	132	171
韓国	対南ア輸出シェア指数	100	91	92	89	92	139
	南ア対韓国輸入シェア指数	100	90	103	96	113	165
シンガポール	対南ア輸出シェア指数	100	103	94	84	79	89
	南ア対シンガポール輸入シェア指数	100	103	116	111	111	125
フィリピン	対南ア輸出シェア指数	100	101	109	96	66	78
	南ア対フィリピン輸入シェア指数	100	104	137	118	92	121
台湾	対南ア輸出シェア指数	100	87	84	90	92	99
	南ア対台湾輸入シェア指数	100	87	92	89	94	99
スリランカ	対南ア輸出シェア指数	100	93	73	72	76	76
	南ア対スリランカ輸入シェア指数	100	108	103	94	100	103
香港	対南ア輸出シェア指数	100	74	72	76	74	80
	南ア対香港輸入シェア指数	100	84	97	94	91	96
タイ	対南ア輸出シェア指数	100	84	73	70	68	72
	南ア対タイ輸入シェア指数	100	90	92	90	95	92
アジア全体	対南ア輸出シェア指数	100	125	134	110	162	133
	南ア対アジア輸入シェア指数	100	131	164	132	204	173

(出所) 表1aに同じ。

るアジア各国のシェアを、同様に91年を100とした場合の指数である。周知のとおり、この種の指数化にともなう問題は基準年の設定によって比較年の数値が大きく左右されるため比較評価にあたっては十分注意が必要なことであるが、絶対的な貿易量やその変動に惑わされずに南アとアジア各国との相対的な重要度の変化を、直観的に把握するうえでは適している。

表5 a, 5 bから明らかなように、民主化後、対アジア貿易における相互貿易シェア（以下、相互シェア）の変化は、上昇が激しかった諸国とそうでない諸国とではっきりしている。アジア全体を基準としてみるならば、輸出（アジアの輸入）面では、パキスタン、インド、マレーシア、インドネシア、タイ、輸入（アジアの輸出）面では、中国、インド、インドネシア、パキスタン、マレーシアとの相互シェアの急増が目立つ。これらはいずれも「新興貿易国グループ」である。ただ、このように同じ新興貿易国でありながらも、マレーシアやインド、パキスタン、そして中国など南ア民主化後貿易量の増大が顕著にみとれる国々と、フィリピンなど比較的微弱な変化しか示していない国々、そしてとくに南アへの輸出（南アの輸入）において民主化以前よりもむしろ相互シェアを下げているタイといった国とを、グループ内でも多少区別してみる必要はあるかもしれない。

### 3. 中立的貿易国グループ

第3のグループは、貿易量のうえで、民主化にともなう影響をあまり受けたとはいえない国、あるいは地域である。表3 a, 3 bではスリランカ（表には示していないが、バングラデシュやマカオ）がこれにあたる。スリランカは、本来ならば第1のグループに属する伝統的な対南ア貿易国であり、1970年代、80年代を通じて、一貫して南アとの貿易を継続した国でもあった。しかし、91年に輸出（スリランカの輸入）が単年絶対額で増加したことを除けば、現在に至るまでその貿易量は長期的に一定して推移し、相対的にはその重要度を徐々に低下させてきている。このことは表5 a, 5 bにおけるスリランカの数値からも明らかである。

この理由については、相互シェアの一方が相対的に伸び悩んでいたフィリピンやタイ同様、これら諸国に共通した主要輸出品目が、所得弾性値の低い食料品<sup>(14)</sup>であるため、その量的な拡大には飛躍的な拡大は望めないことが考えられる。このことを含め、次節では商品別貿易構造の変化とその背景につ

いて検討してみよう。

### 第3節 対アジア貿易の質的側面——新たな分業関係の特徴

前節までにみてきたように南ア民主化は、主として二つの段階を経ながら、国ごとに程度の差こそあれ、対アジア貿易関係に著しい変化をもたらしつつあるといえる。本節では、もう少し詳細にこのことを検証するために、その質的な側面としての商品別貿易構造の変化と分業関係についてみてみよう。

#### 1. 南ア商品別貿易構造

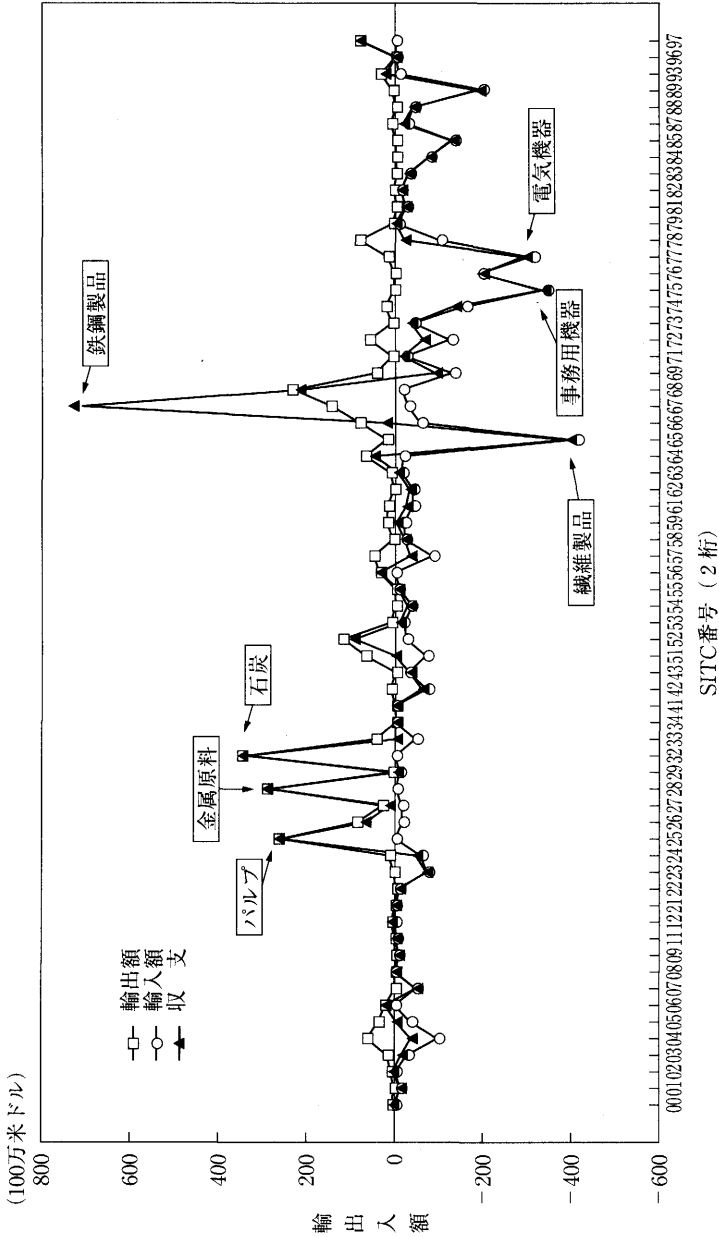
図2 a は、国連の商品別貿易統計<sup>(15)</sup>に基づく1995年の南ア商品別貿易である。基本的な構造は図1と同じであるが、ここで「国際標準分類」(Standard International Trade Classification: SITC) 番号2桁(中分類)のレベルで各商品別の輸出入額を上下の折れ線で示してある。中央に位置する線(▲記号)がその差額としての商品別貿易収支である。なお、SITC 2桁の具体的な商品名については、後掲の表6 a および6 b の該当項目を参照していただきたい。図2 a から南アの主要な輸出品目は貨幣用金、金塊を主とする「特殊取扱品」(SITC93)、「鉄鋼・同製品」(同67)、「非金属鉱物」(同66)、「金属原料」(同28)、「石炭類」(同32)などの鉱物資源である。それに対し主な輸入品目としては、「石油・同製品」(同33)、そして「自動車」(同78)、「一般機械類」(同71~74)、「電気機械類」(同75~77)などのSITC7(大分類)に分類される「機械・輸送用機械類」である。

全体として南アの商品別貿易構造は、石油を除いた貴金属や工業用原料、ならびに中間財を輸出し、最終製造業品を輸入する「原材料・資材」供給国タイプのものとなっている。そうした意味では南米諸国と非常に似通った構造をもっているといえる。





図2b 南ア対アジア地域商品別貿易構造\* (1995年)



(注) \* 南部アフリカ関税同盟の数値。  
(出所) 図2aに同じ。

図2 bは、同様の方法で対アジア開発地域との商品別貿易についてみたものである。前図と比較して明らかなことは、金の輸出と「石油」および「自動車」の輸入があたかも角を折られたように姿を消していることである。逆に、「繊維製品」(SITC65)の輸入が突出しており、このことは対世界貿易と同様に、パルプ、金属原料などの工業用原料を輸出し、「事務用機器」や「電気機械類」という最終製造業品を輸入しながらも、対アジア貿易においては、資本集約度の高い「鉄鋼製品」を輸出し、労働集約度の高い「繊維製品」を輸入するという「中間財貿易」にその特徴があるといえる。以下、国別の貿易関係の変化をみる際にも、この点を念頭においておく必要があるように思われる。

南アにかぎらず一国の商品別貿易構造は、基本的には貿易相手国との間に存在している比較優位構造(対世界においては国際競争力)を反映している。その意味では、アジア開発地域との商品別貿易構造は南アのアジア地域に対する比較優位(あるいは比較劣位)品目を示しているといえる。となれば、一つの仮説として、以下のようにいえるかもしれない。すなわち、民主化を段階的な南ア貿易の自由化の過程と考えるならば、南アとの間に互いの比較優位構造を反映した補完的な分業関係を構築しようとするような貿易部門をもちうる国とそうでない国とでは、南ア民主化が与える効果に自ずと違いが現れるはずである。

本来こういった国際分業が形成される契機となるものは、貿易自由化をともなう貿易協定や地域経済統合の創設であるが、前節の量的な変化を考慮するならば、南ア民主化は、これらと同等のあるいはそれ以上の効果をもっているものといえるかもしれない。こうした視点から、国別の商品貿易構造について次に検討していこう。

## 2. 南ア対アジア主要貿易品目

表6 a, 6 bは国連資料<sup>(16)</sup>から1995年の南ア商品別貿易構造をアジア主要

国別にみたものである。南アの対アジア輸出の主力商品は、「パルプ及び古紙」(SITC番号25)や「金属原料」(同28)を中心とする「工業用原料」(同2)と、「鉄鋼製品」(同67)および「非鉄金属製品」(同68)を中心とする「工業製品」(同6)である。これら「工業用原料」と「工業製品」という二つの大分類品目だけで、95年の南アの対アジア輸出の51.4%を占めている。これに「石炭・コークス・練炭」(同32)、「無機化合物」(同52)の二つの中分類品目を加えると、全体の66.1%に達する。

アジア各国のなかで、これら「工業用原料」と「工業製品」を対アジア地域総体におけるのと同様、輸入品目の上位二つにしているのは、インドネシア、韓国、台湾、パキスタン、インド、タイである。これらの国は、「新興貿易国グループ」のなかでもとくに、表5aにおける南ア輸出面での相互シェアを急速に伸ばしている国か「伝統的貿易国グループ」かのいずれかである。しかし、他のアジア各国の場合も、これら二つの対南ア主要輸入品目に、それぞれ国ごとの事情を背景としたそれ以外の品目が付け加わるといふ商品別輸入構成をもつという点では、基本的にはほとんどすべての国が同じ範疇に属するといえる。

主要輸入品目以外で各国に特徴的な品目についてみると、シンガポールが「工業用原料」よりも産業工作機械を主とする「特殊機械」(SITC72)（「機械類・輸送用機器」〈同7〉）を多く輸入していることや、マレーシアが主要輸入品目を「非貨幣用金」(同97)や「穀物・同加工品」(同04)を含む「食料品」(同0)にしていることなどがあげられる。後述するように、このことは主として輸入国側の産業構造を背景とした国内需要との連鎖が大いに関係しているといつてよい。

南ア輸入面については、その中心的な主要品目はほとんどの国が「繊維製品」(SITC65)、「電気機械類」(同75~77)である。とくに、三つの「伝統的貿易国」と「電気機械類」の割合が少ないもののインドが、典型的にこれらに対南ア輸出品目にしてしていることがわかる。パキスタンも「繊維製品」が輸出全体の57.7%も占めることから、基本的には南アの対アジア輸入構造パター

表6a 南ア (南部アフリカ関税同盟)

SITC	品 目	アジア全体	スリランカ	中 国	香 港
XTOTAL	合計	3,108,846	41,673	246,642	520,110
X0	食料品	157,950	5,100	8,650	29,590
X00	生きている動物	5,994	22	4,820	352
X01	肉類(魚介類を除く)	5,562	5	0	1,453
X02	酪農品	8,295	10	127	1,254
X03	魚介類	16,949	0	125	11,133
X04	穀物及び加工品	61,918	3,860	3,306	78
X05	野菜・果実	35,940	206	256	15,015
X06	糖類(砂糖及び調整品,蜂蜜)	23,934	996	0	591
X07	コーヒー・茶・ココア・香辛料	6,939	0	0	49
X08	飼料	597	0	0	0
X09	その他の食料品	1,122	1	16	665
X1	飲料・たばこ	10,195	28	396	3,841
X11	飲料	4,180	28	38	2,506
X12	たばこ	6,015	0	358	1,336
X2	工業用原料	675,857	572	116,893	42,630
X21	原皮及び毛皮	2,225	0	0	1,235
X22	採油用種子類	44	0	0	0
X23	ゴム	3,561	60	0	731
X24	コルク及び木材	14,911	24	65	176
X25	パルプ及び古紙	257,237	0	6,433	11,731
X26	織物用原料	84,398	0	3,648	1,499
X27	肥料及び粗鋼物	27,657	480	719	311
X28	金属原料	282,112	0	105,978	25,722
X29	その他の原料品	3,710	7	49	1,224
X3	鉱物性燃料	384,823	96	20,436	72,644
X32	炭・コークス・練炭	339,337	0	14,826	71,417
X33	石油及び石油製品	45,372	96	5,610	1,227
X34	天然ガス及び製造ガス	114	0	0	0
X4	動植物性油脂・ワックス	11,726	0	53	9,610
X41	動物性油脂	112	0	53	0
X42	固形植物性油脂	11,453	0	0	9,547
X43	その他の動植物性油脂	162	0	0	63
X5	化学品	308,188	8,136	10,427	100,254
X51	有機化合物	69,336	5,461	4,010	33,299
X52	無機化合物	117,022	1,200	1,793	24,940
X53	染料・塗料類	10,644	197	90	1,145
X54	医薬品	820	31	0	129
X55	精油及び香料	1,918	16	16	825
X56	肥料(X27を除く)	34,638	456	23	189
X57	原料用プラスチック	51,811	447	741	36,296
X58	その他のプラスチック	2,654	51	10	1,913
X59	その他の化学品	19,344	275	3,745	1,519
X6	工業品	1,212,688	26,833	25,524	220,216
X61	革及び製品	17,529	0	285	6,055
X62	ゴム製品	5,028	141	28	1,166
X63	コルク・木材製品	10,318	813	127	2,300
X64	紙及び同製品類	69,064	9,431	3,347	5,971
X65	繊維製品	19,231	37	47	9,206
X66	非金属鉱物・同製品	80,564	5	156	62,267
X67	鉄鋼・同製品	738,315	13,744	2,061	80,233
X68	非鉄金属・同製品	228,636	2,232	13,722	31,287
X69	その他の金属製品	44,001	430	5,752	9,977
X7	機械・輸送用機器	210,391	515	62,729	25,399
X71	原動機	6,298	0	24	708
X72	特殊機械	60,558	90	484	2,635
X73	金属加工機械	6,250	19	127	18
X74	その他の一般機械及び部品	22,781	156	1,412	7,719
X75	事務用機器	4,525	1	43	868
X76	通信・音響機器類	2,928	2	240	304
X77	その他の電気機器及び部品	17,254	65	65	9,309
X78	自動車	82,909	129	60,307	3,614
X79	その他の輸送用機器及び部品	6,889	54	26	224
X8	その他の工業品	24,104	377	647	3,792
X81	プレハブ建築物	605	1	0	161
X82	家具・寝具類	3,266	33	25	215
X83	旅行用具・ハンドバッグ類	413	0	29	66
X84	衣類及びアクセサリー	1,363	1	90	513
X85	靴	935	0	19	484
X87	その他の科学用機器	11,105	2	294	236
X88	その他の写真用機器・時計	688	0	29	69
X89	上記以外のその他の工業品	5,728	340	160	2,048
X9	未分類品	112,925	17	886	12,134
X93	特殊取扱品	32,129	17	886	4,457
X96	金以外の非貨幣用コイン	0	0	0	0
X97	非貨幣用金(金塊を除く)	80,796	0	0	7,677

(注) \* 台湾は原表では「それ以外のアジア」となっている。  
(出所) 図2aに同じ。

対アジア商品別輸出 (1995年)

(単位:1,000米ドル)

インドネシア	韓国	マレーシア	台湾*	パキスタン	フィリピン	インド	シンガポール	タイ	その他
142,876	542,365	177,919	695,837	74,451	45,337	195,366	251,531	165,272	9,467
9,180	34,889	39,966	10,834	146	724	234	13,304	4,723	610
0	0	292	6	0	0	0	91	404	7
0	0	0	0	0	0	0	1,092	0	5
2,958	66	0	546	0	0	0	936	3,377	21
0	129	247	1,305	0	0	0	3,107	810	93
5,991	10,531	37,757	143	0	75	1	79	57	40
88	1,682	1,521	8,179	118	616	219	7,651	40	349
0	21,978	79	61	21	33	0	138	0	37
5	403	30	42	0	0	14	71	0	25
0	93	31	447	0	0	0	1	26	0
138	0	9	105	7	0	0	138	9	34
1,084	197	29	2,769	1	83	45	691	746	294
1,084	197	20	605	1	83	45	226	236	194
0	0	0	2,164	0	0	0	465	510	98
89,734	130,090	5,575	132,718	17,077	7,048	55,044	11,492	65,375	1,609
109	240	0	34	69	0	418	80	0	40
0	0	0	44	0	0	0	0	0	0
68	14	2	39	16	0	1,149	0	1,481	1
0	7,970	0	5,740	0	29	698	41	16	152
73,808	20,925	193	68,088	186	6,663	26,227	48	56,896	56
143	19,762	82	18,096	16,720	23	10,204	0	322	882
648	11,649	573	8,531	0	0	1,370	447	2,923	6
14,950	68,209	4,676	31,410	86	348	15,944	10,626	3,718	445
8	1,321	0	736	0	13	33	250	19	0
80	127,951	37	116,766	74	62	21,106	22,054	719	2,798
2	127,171	23	110,679	0	0	14,190	4	12	1,013
78	779	14	6,087	74	62	6,803	22,050	706	1,786
0	0	0	0	0	0	114	0	0	0
80	6	19	21	0	13	0	1,923	0	1
0	0	0	21	0	0	13	24	0	1
0	6	0	0	0	0	0	1,898	0	2
80	0	19	0	0	0	0	0	0	0
16,864	17,307	15,869	25,431	13,218	16,022	49,126	15,756	17,709	2,069
44	3,152	341	7,258	2,489	398	9,630	3,038	104	112
11,854	11,296	6,483	7,836	0	2,603	38,221	6,860	3,936	0
901	1,736	1,773	1,025	136	270	14	793	1,314	1,250
20	146	215	193	0	3	46	32	0	0
98	16	85	132	75	93	1	421	115	25
3,211	38	6,170	394	7,762	8,712	0	470	7,214	0
0	217	7	5,950	0	3,852	248	2,236	1,245	572
116	34	44	4	2,755	92	45	252	185	0
620	673	751	2,638	2,755	919	919	1,654	3,596	107
22,794	227,420	39,329	387,875	30,379	19,324	61,819	83,148	67,189	838
0	3,152	33	1,445	0	0	75	5,765	715	4
50	113	1	4,103	0	208	50	182	59	71
141	4,680	115	1,366	0	29	376	482	0	23
20	229	9,288	1,046	973	408	6,785	12,684	2,212	341
1,681	3,986	459	4,361	55	109	758	1,631	62	74
1,590	2,837	513	5,403	4	0	345	3,934	3,521	50
13,864	146,652	25,369	273,380	25,170	16,467	49,679	42,389	48,702	105
5,288	63,549	473	94,117	2,060	332	2,368	4,731	8,417	0
160	2,222	3,078	2,094	2,117	1,772	1,384	11,350	3,501	164
2,963	2,935	7,798	15,239	7,465	1,577	5,704	69,975	7,126	966
35	1,563	0	242	0	77	21	3,626	1	1
489	553	362	570	551	162	1,374	50,677	2,181	430
1,190	191	429	1,714	322	29	287	181	1,668	75
1,014	388	2,156	1,923	70	277	1,149	4,213	2,264	40
0	44	187	836	408	156	633	968	364	17
63	0	962	66	831	3	15	422	14	6
56	176	2,423	1,709	234	727	950	1,124	405	11
115	21	967	7,952	344	0	1,255	7,877	219	109
0	0	311	227	4,705	146	19	886	10	281
47	1,500	7,892	3,788	1,203	154	644	2,736	1,058	266
0	1	176	48	1	3	8	205	2	0
0	1,415	144	264	90	0	0	684	389	7
0	1	3	26	0	11	0	270	6	1
0	0	1	657	0	0	3	63	34	1
0	0	0	156	0	0	15	250	0	11
9	42	7,110	1,593	521	16	401	543	326	12
0	5	13	483	11	0	14	56	2	0
38	36	445	1,034	109	124	203	664	295	232
52	69	61,414	395	4,887	312	1,631	30,454	626	48
52	69	6,571	395	4,887	312	1,631	12,178	626	48
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	54,843	0	0	0	0	18,276	0	0

表6b 南ア（南部アフリカ関税同盟）

SITC	品 目	アジア全体	スリランカ	中 国	香 港
MTOTAL	合計	3,422,411	14,500	510,546	452,655
M0	食料品	231,775	6,610	33,074	2,393
M00	生きている動物	128	0	4	15
M01	肉類(魚介類を除く)	12,807	0	4,767	3
M02	酪農品	7,26	0	6	10
M03	魚介類	29,528	16	150	274
M04	穀物及び加工品	97,344	0	73	86
M05	野菜・果実	37,321	1,500	26,944	1,398
M06	糖類(砂糖及び調整品、蜂蜜)	355	0	52	0
M07	コーヒン・茶・ココア・香辛料	48,903	5,092	897	207
M08	飼料	1,056	0	103	10
M09	その他の食料品	4,307	2	78	390
M1	飲料・たばこ	382	0	10	19
M11	飲料	256	0	7	19
M12	たばこ	125	0	3	0
M2	工業用原料	184,203	1,997	22,425	1,470
M21	皮革及び毛皮	171	0	0	1
M22	採油用種子類	8,491	0	7,983	22
M23	ゴム	73,413	1,367	0	0
M24	コルク及び木材	58,509	21	75	0
M25	パルプ及び古紙	390	0	246	0
M26	織物用原料	18,631	564	530	820
M27	肥料及び粗鋼物	14,301	3	12,256	282
M28	金属原料	2,188	0	783	30
M29	その他の原料品	8,106	41	552	314
M3	鉱物性燃料	46,121	19	11,828	891
M32	石・コークス・練炭	6,573	19	0	0
M33	石油及び石油製品	45,443	0	11,828	891
M34	天然ガス及び製造ガス	4	0	0	0
M4	動植物性油脂、ワックス	98,436	0	35	75
M41	動物性油脂	327	0	0	0
M42	固形植物性油脂	69,387	0	35	74
M43	その他の動植物性油脂	28,720	0	0	1
M5	化学品	276,100	3,505	38,158	21,193
M51	有機化合物	67,850	223	13,727	5,891
M52	無機化合物	24,524	0	8,660	3,933
M53	染料・塗料類	16,351	19	1,291	3,869
M54	医薬品	33,813	0	6,097	1,780
M55	精油及び香料	3,761	0	610	198
M56	肥料(M27を除く)	118	0	0	52
M57	原料用プラスチック	85,547	0	2,529	1,587
M58	その他のプラスチック	22,598	0	1,302	633
M59	その他の化学品	21,337	3,263	3,941	3,249
M6	工業品	748,206	1,710	94,145	93,172
M61	革及び製品	42,014	0	520	1,336
M62	ゴム製品	39,853	668	1,125	614
M63	コルク・木材製品	10,776	2	1,660	910
M64	紙及び同製品類	18,728	2	1,606	1,694
M65	繊維製品	403,006	502	38,316	49,531
M66	非金属鉱物・同製品	55,697	500	17,281	11,317
M67	鉄鋼・同製品	29,305	0	3,629	3,854
M68	非鉄金属・同製品	18,463	0	6,841	2,640
M69	その他の金属製品	130,365	37	23,166	21,277
M7	機械・輸送用機器	1,288,742	124	133,213	197,941
M71	原動機	23,008	0	1,295	1,971
M72	特殊機械	125,412	1	14,511	12,294
M73	金属加工機械	42,585	0	5,991	3,881
M74	その他の一般機械及び部品	157,000	20	16,740	16,790
M75	事務用機器	334,125	0	23,734	48,803
M76	通信・音響機器類	193,595	1	22,573	39,337
M77	その他の電気機器及び部品	306,981	84	36,884	71,855
M78	自動車	102,450	13	9,945	2,091
M79	その他の輸送用機器及び部品	3,590	6	1,541	920
M8	その他の工業品	541,697	524	176,731	134,252
M81	プレハブ建築物	23,157	0	6,056	5,404
M82	家具・寝具類	13,926	0	2,620	1,507
M83	旅行用具・ハンドバッグ類	31,692	0	13,652	12,875
M84	衣類及びアクセサリー	79,022	154	35,299	13,384
M85	靴	131,644	227	63,813	33,437
M87	その他の科学用機器	26,945	0	3,690	4,772
M88	その他の写真用機器・時計	40,446	0	4,373	24,258
M89	上記以外のその他の工業品	194,869	142	47,028	38,615
M9	未分類品	6,751	12	926	1,249
M93	特殊取扱品	6,710	12	925	1,248
M96	金以外の非貨幣用コイン	0	0	0	0
M97	非貨幣用金(金塊を除く)	39	0	0	0

(注) \* 台湾は原表では「それ以外のアジア」となっている。  
(出所) 図2aに同じ。

対アジア地域商品別輸入 (1995年)

(単位:1,000米ドル)

インドネシア	韓国	マレーシア	台湾*	パキスタン	フィリピン	インド	シンガポール	タイ	その他
100,915	412,644	246,085	896,583	29,581	21,525	195,860	324,568	192,318	24,631
18,186	4,372	8,245	3,399	517	11,821	17,951	11,915	101,496	11,796
10	0	17	3	0	0	0	79	0	0
201	0	0	10	0	0	0	2,208	5,626	0
0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
658	3,267	189	966	230	11,124	2,524	1,520	8,610	0
639	934	99	119	195	0	9,991	482	84,282	444
38	28	1,070	1,673	59	399	1,028	664	2,453	67
17	671	120	27	17	1	17	5	26	2
15,860	68	5,072	147	15	0	4,327	5,728	215	11,283
0	0	27	327	0	297	28	4	260	0
763	4	1,651	125	1	0	42	1,227	24	0
11	10	0	11	0	0	294	22	5	0
0	10	0	11	0	0	183	22	4	0
11	0	0	0	0	0	111	0	0	0
23,772	6,229	67,667	11,142	775	470	7,322	37,196	3,279	459
0	0	0	170	0	0	0	0	0	0
0	0	0	1	0	0	462	5	18	0
22,128	427	35,476	1,447	89	126	83	9,508	2,401	361
672	28	31,872	21	1	0	38	25,734	13	34
0	0	0	0	0	0	95	49	0	0
469	5,087	251	9,209	429	72	367	151	638	44
472	675	0	77	0	2	465	9	60	0
0	0	0	3	0	0	1,358	0	14	0
31	12	68	214	255	269	4,455	1,741	134	20
0	8	2,260	29,239	0	0	11	1,211	0	654
0	0	0	0	0	0	0	0	0	654
0	8	2,260	29,234	0	0	11	1,211	0	0
0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
2,395	15	90,283	6	0	224	1,698	3,704	1	0
0	0	327	0	0	0	0	0	1	0
1,663	15	64,596	2	0	0	1,195	1,806	0	0
731	0	25,360	4	0	224	503	1,897	0	0
5,225	68,260	4,927	72,162	236	1,731	22,345	31,636	5,877	845
3,599	7,661	2,076	17,544	0	1,121	10,808	4,808	274	118
0	633	8	9,015	2	0	1,544	558	171	0
42	1,479	45	6,307	30	0	2,705	705	59	0
340	3,225	10	1,727	161	371	2,538	16,364	932	268
430	78	63	594	3	6	724	1,024	31	0
0	2	0	0	0	0	64	0	0	0
0	48,391	2,272	24,890	0	0	206	4,401	852	419
116	6,101	26	10,171	0	4	2,663	543	1,000	39
698	691	427	1,915	39	230	1,093	3,233	2,558	0
27,979	118,642	14,090	213,148	22,427	2,163	89,368	31,674	33,028	6,660
53	686	2,7	1,052	4,799	0	26,937	4,927	522	1,175
553	15,208	6,678	10,810	1	0	1,937	3,337	2,922	0
1,540	61	1,401	1,920	31	131	307	2,296	501	16
6,606	897	258	5,159	0	15	1,616	792	37	46
13,148	77,991	3,647	125,994	17,074	432	37,730	13,125	20,886	4,630
5,328	669	508	6,725	40	1,421	4,626	1,494	5,317	471
59	4,712	3	9,695	0	0	5,441	171	1,705	36
55	591	5,196	879	1	0	1,291	685	117	167
638	17,826	391	50,914	481	165	9,487	4,845	1,020	118
6,966	187,524	50,494	475,604	246	2,647	26,242	177,316	29,432	994
4	3,823	26	10,330	0	0	1,915	3,363	281	0
98	12,410	1,004	67,163	64	0	3,396	13,270	1,100	101
0	1,814	51	28,985	0	0	1,340	199	324	0
140	24,077	8,215	44,795	18	33	5,778	31,482	8,304	608
808	19,939	9,931	194,527	0	295	474	28,777	6,788	49
2,914	31,769	16,833	18,855	133	292	881	57,319	2,658	30
1,736	53,131	11,443	72,833	23	2,013	6,533	40,705	9,537	204
1,266	40,545	2,990	38,097	8	13	5,718	1,320	440	4
0	16	1	19	0	0	207	880	0	0
16,327	27,281	7,440	89,540	5,325	2,463	30,369	29,437	19,128	2,880
98	500	455	4,967	18	82	769	862	3,941	5
2,484	138	698	4,405	312	599	238	288	604	33
54	406	13	3,360	18	82	686	56	266	124
1,387	925	2,151	5,760	991	89	14,602	286	3,708	286
9,360	4,093	54	10,204	427	802	4,809	348	2,208	1,862
32	3,480	744	10,134	471	71	1,047	2,303	192	9
78	2,809	73	6,890	0	186	218	755	577	29
2,833	14,930	3,253	43,822	3,089	552	8,000	24,539	7,533	533
55	303	679	2,333	55	5	260	456	72	346
55	303	679	2,333	55	5	260	417	72	346
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	39	0	0

ンに合致している。ただ、その対南ア輸出構成上、これら2品目に加えて別の主要品目をもつ国として中国（「雑製品」〈同8〉）とマレーシア（「動植物性油脂」〈同4〉）がある。これら両国は、南ア輸出面におけるシンガポール同様、輸入面における「相互シェア」を上昇させている「新興貿易国グループ」であるが、後述するように、その背景には、これら輸出国側の産業構造、あるいは国内生産構造が影響している。

以上のように、南アの対アジア商品別貿易は、後述する三つの国に関する検討に象徴されるように、国ごとの特色を一部もつものの、アジアに対する南ア比較優位品目（工業用原料、工業製品）と南アに対するアジアの比較優位品目（工業製品、電気機械類）が貿易されるという基本的なパターンが全体としてみられるといえる。

### 3. 南ア対アジア各国の分業関係

ここでは、前項の分析から、南アとの商品別輸出入構成比にその国独特の特徴がみられ、かつ近年、相互の貿易シェアを高めつつある三つの国、シンガポール、中国、マレーシアについて、南アとの分業関係とその背景について検討してみる。

#### (1) 対シンガポール貿易の水平分業的要素

周知のとおり、シンガポールは、世界に対する主力輸出品目を家電を中心とした加工組立型産業においている。国連統計<sup>(17)</sup>によれば、シンガポールの「機械類・輸送用機器」(SITC7)は1994年の輸出全体の63.9%を占めている。しかし、小国ゆえにそうした輸出産業を支えるのに十分な資本財(加工用機械)や部品を供給する中間財産業を国内にもちえないため、輸入面でも特殊機械や部品などの資本財輸入が、輸入全体の56.5%も占めることになる。このことはシンガポールという国のおかれた状況と産業構造自体に、他国との間に水平分業を生み出す素地があることを意味している。



現実にシンガポールは、日本やアメリカなどとの間で中間財と完成品とを貿易する「産業間水平分業」や、それら先進地域からの直接投資を通じてタイやマレーシアなど周辺諸国との間で「工程間分業」（中間財貿易）を活性化させてきた。対南ア貿易もこの流れに類するものといえるが、このことを確かめるために表6 a, 6 bのデータをもとにした南アの対アジア貿易特化係数<sup>(18)</sup>を表7に掲げた。また、資料は異なるが比較のため、南ア、シンガポール、中国、マレーシアの対世界主要貿易産業の貿易特化係数を表8にまとめた。

両表におけるこの係数は、計算上、-1（中分類における相手国完全特化）から0（同完全水平分業）、そして1（同自国完全特化）までの値をとり、きわめてシンプルな形で二国間の分業状況を表している。表7では、南アが自国であるから、正の場合は、南ア側が主に輸出し、負の場合は輸入していることになる<sup>(19)</sup>。

シンガポールの対南ア貿易量（輸出額+輸入額）の多い「鉄鋼製品」（貿易量全体の7%）と「機械・輸送用機器」（同43%）を構成する一連の各中分類品目の貿易について表7でみると、同国が中間財である「鉄鋼製品」と資本財である「特殊機械」の一部を輸入し、より完成度の高い家電などの機械類を輸出していることがわかる。とくに、「機械・輸送用機器」全体の特化係数が中国とともに低いことから、他のアジア開発地域に比べ、シンガポール、南ア間の分業関係には、水平分業型の部分が多く含まれていることがうかがえる。そして、このことは表8における対世界のシンガポール特化係数(0.03)にも現れている。

結果として、シンガポールは、金属原料などの工業用原料も南アから輸入してはいるが、輸入量全体からするとわずかに4.6%と、他の「新興貿易国グループ」に比べ、その割合は低い。それは、これら品目が精錬など国内でさらに川下の加工産業(立地)を必要とするため、上述したシンガポールの事情から、加工過程を国外化（つまり鉄鋼として輸入）せざるをえないからである。このように輸入需要が極端に限られた品目では、いかに国際競争力があ

表7 南ア貿易

SITC	品目	世界	先進地域	発展途上地域	アフリカ	中南米	中東	アジア開発地域
TOTAL	合計	-0.01	-0.20	0.06	0.65	-0.07	-0.67	-0.05
0	食料品	0.19	0.25	0.07	0.49	-0.83	0.80	-0.19
03	魚介類	0.55	0.78	-0.03	0.50	*	*	-0.27
04	穀物及び調整品	-0.30	-0.87	0.15	0.63	-0.69	0.86	-0.22
05	野菜・果実	0.78	0.89	0.39	0.69	-0.20	0.81	-0.02
07	コーヒー・茶・ココア・香辛料	-0.50	-0.11	-0.66	-0.30	-1.00	*	-0.97
1	飲料・たばこ	0.11	-0.15	0.37	0.44	-0.13	*	0.93
2	原料品(食料品を除く)	0.48	0.55	0.33	-0.21	-0.66	0.69	0.57
23	ゴム	-0.78	-0.78	-0.78	*	*	*	-0.91
24	コルク及び木材	0.08	0.55	-0.56	-0.56	-1.00	*	-0.59
25	パルプ及び古紙	0.84	0.82	0.88	*	-0.96	*	1.00
26	織物用原料	0.14	0.18	0.08	-0.75	*	*	0.64
27	肥料及び粗鋼物	0.34	0.42	0.11	-0.05	*	*	0.32
28	金属原料	0.75	0.73	0.82	0.21	0.69	*	0.98
3	鉱物性燃料	-0.12	0.54	-0.34	0.60	1.00	-0.96	0.79
32	石炭・コークス・練炭	0.95	0.93	0.99	*	1.00	1.00	1.00
33	石油及び石油製品	-0.66	-0.70	-0.61	0.58	1.00	-1.00	-0.00
4	動植物性油脂・ワックス	-0.73	-0.85	-0.71	0.93	-1.00	*	-0.79
42	固形植物性油脂	-0.73	-0.76	-0.73	*	-1.00	*	-0.72
5	化学品	-0.23	-0.45	0.42	0.93	0.22	0.21	0.05
51	有機化合物	-0.51	-0.71	0.11	0.88	-0.06	0.06	0.01
52	無機化合物	0.63	0.62	0.68	0.78	0.73	*	0.65
54	医薬品	-0.83	-0.94	-0.06	0.83	*	*	-0.95
56	肥料(X27を除く)	0.54	-0.06	1.00	1.00	1.00	*	-0.99
57	原料用プラスチック	-0.55	-0.91	0.12	0.98	-0.84	*	-0.25
59	その他の化学品	-0.38	-0.81	0.68	0.97	0.63	*	-0.05
X6	工業品	0.37	0.36	0.40	0.66	0.45	0.63	0.24
61	革及び製品	0.17	0.47	-0.48	*	-0.87	*	-0.41
62	ゴム製品	-0.45	-0.68	0.09	0.83	*	*	-0.78
X64	紙及び同製品類	0.02	-0.21	0.72	0.91	0.71	*	0.57
65	繊維製品	-0.59	-0.50	-0.65	0.43	0.45	-0.65	-0.91
66	非金属鉱物・同製品	0.59	0.67	-0.07	-0.25	-0.68	0.44	0.18
67	鉄鋼・同製品	0.74	0.59	0.93	0.98	0.72	0.97	0.92
68	非鉄金属・同製品	0.58	0.54	0.77	0.47	0.17	*	0.85
69	その他の金属製品	-0.21	-0.40	0.08	0.68	0.36	*	-0.50
7	機械・輸送用機器	-0.67	-0.79	-0.11	0.92	-0.09	-0.31	-0.72
72	特殊機械	-0.69	-0.91	0.28	0.90	0.64	*	-0.35
73	金属加工機械	-0.79	-0.89	-0.38	*	*	*	-0.74
74	その他の一般機械及び部品	-0.54	-0.69	0.14	0.97	-0.26	*	-0.75
75	事務用機器	-0.89	-0.90	-0.81	0.93	-0.43	*	-0.97
76	通信・音響機器類	-0.83	-0.92	-0.60	0.92	0.79	*	-0.97
77	その他の電気機器及び部品	-0.72	-0.80	-0.44	0.84	-0.52	-0.51	-0.89
78	自動車	-0.59	-0.75	0.44	0.96	-0.72	*	-0.11
8	その他の工業品	-0.42	-0.41	-0.45	0.50	0.10	0.19	-0.91
84	衣類及びアクセサリー	0.03	0.59	-0.56	-0.03	*	*	-0.97
85	靴	-0.77	-0.42	-0.88	*	*	*	-0.99
87	その他の科学用機器	-0.77	-0.87	0.08	0.85	*	*	-0.42
88	その他の写真用機器・時計	-0.84	-0.89	-0.60	*	*	*	-0.97
89	上記以外のその他の工業品	-0.61	-0.69	-0.39	0.89	0.22	*	-0.94
9	未分類品	0.80	-0.15	0.26	0.72	0.45	-0.47	0.89
93	特殊取扱品	0.80	-0.19	-0.03	0.79	0.44	-0.60	0.65
97	非貨幣用金(金塊を除く)	0.94	0.91	0.96	*	*	*	1.00

(出所) 表6a, 6bより筆者作成。

## 特化係数

スリランカ	中国	香港	インドネシア	韓国	マレーシア	台湾*	パキスタン	フィリピン	インド	シンガポール	タイ
0.48	-0.35	0.07	0.17	0.14	-0.16	-0.13	0.43	0.36	-0.00	-0.13	-0.08
-0.13	-0.59	0.85	-0.33	0.78	0.66	0.52	-0.56	-0.88	-0.97	0.06	-0.91
*	*	0.95	*	*	*	*	*	-1.00	-1.00	0.34	-0.83
1.00	*	*	0.81	0.84	0.99	*	*	*	-1.00	*	-1.00
-0.76	-0.98	0.83	*	*	0.17	0.66	*	0.21	*	0.84	-0.97
-1.00	*	*	-1.00	*	-0.99	*	*	*	-0.99	-0.98	*
*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
-0.55	0.68	0.93	0.58	0.91	-0.85	0.85	0.91	0.87	0.77	-0.53	0.90
-0.92	*	*	-0.99	*	-1.00	*	*	*	*	-1.00	-0.24
*	*	*	*	0.99	-1.00	*	*	*	*	-1.00	*
*	0.87	*	1.00	1.00	*	1.00	*	1.00	0.99	*	1.00
-1.00	0.85	0.87	*	0.59	*	0.33	0.95	*	0.93	*	*
0.99	-0.89	*	*	0.89	*	0.98	*	*	*	*	0.96
*	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	*	1.00	0.84	1.00	0.99
*	0.27	0.98	1.00	1.00	-0.97	0.60	*	*	1.00	0.90	*
*	1.00	1.00	1.00	1.00	*	1.00	*	*	1.00	*	*
*	-0.36	*	1.00	*	-0.99	-0.65	*	*	1.00	0.90	*
*	*	0.98	-0.94	*	-1.00	*	*	*	*	-0.32	*
*	*	0.98	-1.00	*	-1.00	*	*	*	*	0.02	*
0.40	-0.57	0.65	0.53	-0.60	0.53	-0.48	0.96	0.80	0.37	-0.34	0.50
0.92	-0.55	0.70	-0.98	-0.42	-0.72	-0.41	1.00	-0.48	-0.06	-0.23	*
1.00	-0.66	0.73	1.00	0.89	1.00	-0.07	*	1.00	0.92	0.85	0.92
*	-1.00	*	*	*	*	*	*	-0.98	-0.96	*	*
1.00	*	*	1.00	*	1.00	*	1.00	1.00	*	1.00	1.00
1.00	*	0.92	EKR	-0.99	-0.99	-0.61	*	1.00	*	-0.33	0.19
-0.84	-0.03	*	-0.06	*	*	*	0.97	*	-0.09	-0.32	0.17
0.08	-0.57	0.41	-0.10	0.31	0.47	0.29	0.15	0.80	-0.18	0.45	0.34
*	*	0.64	*	*	*	*	-1.00	*	-0.99	0.08	*
-0.65	*	*	*	-0.99	-1.00	-0.45	*	*	-0.95	-0.90	-0.96
1.00	0.35	0.86	-0.99	*	0.95	*	1.00	0.93	0.62	0.88	0.97
-0.86	-1.00	-0.78	-0.77	-0.90	-0.78	-0.93	-0.99	-0.60	-0.96	-0.78	-0.99
-0.98	-0.98	0.69	-0.54	*	*	-0.11	*	-1.00	-0.86	0.45	-0.20
1.00	-0.28	0.91	0.99	0.94	1.00	0.93	1.00	1.00	0.80	0.99	0.93
1.00	0.33	0.84	0.98	0.98	-0.83	0.98	1.00	*	0.29	0.75	0.97
0.84	-0.60	-0.36	*	-0.78	0.77	-0.92	0.63	0.83	-0.75	0.40	0.55
0.61	-0.36	-0.77	-0.40	-0.97	-0.73	-0.94	0.94	-0.25	-0.64	-0.43	-0.61
*	-0.94	-0.65	*	-0.91	*	-0.98	0.79	*	-0.42	0.58	0.33
*	-0.96	*	*	*	*	-0.89	*	*	*	*	0.67
*	-0.84	-0.37	*	-0.97	-0.58	-0.92	*	*	-0.67	-0.76	-0.57
*	-1.00	-0.97	*	-1.00	-0.96	-0.99	*	-0.31	*	-0.93	-0.90
*	-0.98	-0.98	-0.96	-1.00	-0.89	-0.99	0.72	*	*	-0.99	-0.99
*	-1.00	-0.77	-0.94	-0.99	-0.65	-0.95	*	-0.47	-0.75	-0.95	-0.92
*	0.72	0.27	-0.83	-1.00	-0.51	-0.65	*	*	-0.64	0.71	*
-0.16	-0.99	-0.95	-0.99	-0.90	0.03	-0.92	-0.63	-0.88	-0.96	-0.83	-0.90
*	-0.99	-0.93	-1.00	*	-1.00	*	-1.00	*	-1.00	*	-0.98
*	-1.00	-0.97	-1.00	*	*	-0.97	*	-1.00	-0.99	*	-1.00
*	-0.85	-0.91	*	*	0.81	-0.73	0.05	*	*	*	*
*	-0.99	-0.99	*	*	*	*	*	*	*	*	*
0.41	-0.99	-0.90	-0.97	-1.00	-0.76	-0.95	-0.93	-0.63	-0.95	-0.95	-0.92
*	*	0.81	*	*	0.98	*	0.98	*	*	0.97	*
*	*	0.56	*	*	0.81	*	0.98	*	*	0.93	*
*	*	1.00	*	*	1.00	*	*	*	*	1.00	*

表8 南アおよびアジア3カ国の対世界特化係数

	南ア	シンガポール	中国	マレーシア
工業用原料	0.47	*	-0.28	0.50
動植物性油脂	-1.00	*	*	0.90
工業品	0.18	-0.30	-0.09	-0.22
機械・輸送用	-0.72	0.03	-0.40	-0.06
雑製品	-0.54	-0.16	0.77	0.26
特殊取扱品	0.74	-0.11	*	-0.68

(出所) 国連「世界貿易統計年鑑」1994年版, 第1巻より筆者作成。

ろうと二国間貿易は伸長しない<sup>(20)</sup>。

## (2) 対中貿易の特徴

南アに対する中国の主要輸出品は、電気機械類と靴などの軽工業品である。靴製品は、中国にとってアパレル(衣類)とならび、東アジアからの直接投資を通じて国際競争力をもつにいたった輸出品の一つである(表8では、雑製品に分類される)。輸出全体でも単独で6.9%<sup>(21)</sup>ものシェアを誇っている。結果として、表7における両商品の対南ア特化係数をみても、ほぼ中国側の完全特化品目といってよい(それぞれ-1.00, -0.99)。またこれら二つの商品が、いずれも繊維産業の川下に位置する労働集約的な低付加価値財であることを考慮すれば、分業関係上からも「繊維製品」(特化係数-1.00)との類似性はきわめて高い。シンガポールとは対照的に、中国のような国土、人口ともに大規模な国にとっては、繊維製品などをそのまま輸出するよりも、付加価値を高めるための加工産業(立地)を行うことにより、加工過程を国内化する「輸出代替」<sup>(22)</sup>が有益である。南ア側統計でも、これら「衣類・履き物(靴類)」輸入の大きな伸びが、このことを反映している。

その反面、表5aでみたように、南アの対中国輸出における相互シェアの伸び悩みについては、これら両国の類似した鉱物資源の賦存(工業用原料)構造を指摘することができる。石炭、鉄鉱石、銅鉱、ニッケルなどをはじめと

する鉱物燃料、金属原料の多くにおいて両国は世界の有力な生産国である。このことは、少なくとも他のアジア各国に比べ、現時点での南ア輸出が相対的に伸び悩む一つの要因として作用している。

### (3) マレーシアとの特産品貿易

マレーシアは南ア輸出入両面において、その主要品目が南ア対アジア貿易構造とは合致しない。南アから金（「特殊取扱品」〈SITC93〉）を主要品目として輸入し、パーム油を中心とする「固形植物性油脂」（同42）と「ゴム」（同23）や「コルク及び木材」（同24）などの「工業用原料」を主な輸出品目としている。周知のとおり、金は南アの対世界における主要な輸出品目であり、その賦存に恵まれた特産品（特化係数1.00）<sup>(23)</sup>でもある。また、マレーシアの特産品であるパーム油、ゴム、そして木材は、電気機械類に次ぐ主要輸出商品であり、それぞれパーム油4.8%、天然ゴム2.9%、木材4.7%の対世界輸出シェアとなっている<sup>(24)</sup>。事実、「固形植物性油脂」（特化係数-1.00）の南アの対アジア輸入の93.1%（対世界輸入の28.5%）、「ゴム」（特化係数-1.00）の48.3%（同27.4%）<sup>(25)</sup>がマレーシア一国からのものであることを考えると、南ア・マレーシア間の分業関係の基本的な構図は、比較優位的なものというよりは、特産品貿易の色彩が強いということになる。

## 4. 対アジア商品別貿易構造の推移

以上のような3カ国と南アとの特徴的な分業関係は、本節第2項で述べた貿易パターンにおける相互補完性と相互シェアの拡大に関する視点からどのように考えられるであろうか。

南アの対アジア地域大の貿易パターンは、各国との分業関係が集積した結果であるから、当然、経済発展や国の規模、産業構造を異にする各国それぞれの貿易構造を等しく表現しているわけではない。

しかしながら、その一方で、現時点における南ア対アジアの分業構造や関

表9a 南ア対アジア主要国商品別

	パキスタン		インド		スリランカ		シンガポール		マレーシア	
	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996
畜産物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.2	1.7	0.0	0.9
野菜	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	10.4	6.2	1.5	0.1	16.4
動植物性油脂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	5.6	0.8	0.0	0.0
食品・たばこ・飲料	0.0	0.2	0.0	0.1	13.3	9.4	3.7	2.9	0.0	11.5
鉱物	1.2	0.2	17.0	15.7	6.0	2.9	3.0	22.1	11.9	1.1
化学品	5.6	8.8	3.2	25.4	3.7	5.5	9.3	4.9	1.2	9.3
プラスチック・ゴム	26.6	0.4	2.1	0.5	6.0	2.2	8.7	1.1	30.8	0.8
皮革・旅行用具	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.8	1.3	0.4	0.0
木材・木材製品	0.0	0.1	0.4	0.3	2.3	1.8	0.6	0.1	0.0	0.2
パルプ・紙類	6.0	8.2	21.1	6.4	17.1	16.9	16.5	2.2	4.4	3.1
繊維製品	0.1	14.0	18.5	7.4	0.1	0.0	0.5	1.1	2.0	0.2
衣類・履き物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
非金属鉱物原料	0.0	0.0	23.8	0.1	0.4	0.3	3.9	0.6	20.3	0.4
貴金属	0.2	0.0	0.1	2.6	49.6	0.0	2.7	33.9	0.0	0.2
卑金属	47.2	56.1	9.6	34.9	0.8	39.0	27.5	17.2	25.9	43.0
機械類	9.7	1.5	3.4	5.0	0.3	0.4	6.1	4.6	2.0	4.0
自動車及び輸送用機器	0.0	0.8	0.3	1.4	0.0	7.9	2.8	3.7	0.1	7.1
精密機械	0.8	9.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	1.4
その他の製造業品	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.5	0.3	0.9	0.4
芸術・収集品	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特殊取扱品	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
輸出額全体(100万ランド=100%)	32.0	348.8	20.1	1,055.9	186.1	196.7	292.4	1,637.7	9.0	714.6

(出所) 表5aに同じ。

表9b 南ア対アジア主要国商品別

	パキスタン		インド		スリランカ		シンガポール		マレーシア	
	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996
畜産物	3.2	1.8	1.5	1.7	0.2	0.3	1.1	0.6	0.0	0.1
野菜	9.0	2.6	13.4	17.9	49.7	38.2	2.9	1.8	1.1	1.2
動植物性油脂	0.0	0.0	0.1	0.6	0.1	1.1	4.6	1.1	43.3	37.3
食品・たばこ・飲料	0.2	0.0	1.3	1.9	0.9	0.4	0.7	0.4	1.3	3.0
鉱物	0.1	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.7	7.6	0.0	0.9
化学品	0.2	1.0	6.3	13.8	17.7	26.3	9.2	5.4	0.1	3.1
プラスチック・ゴム	0.1	0.5	0.9	3.4	15.3	10.0	6.0	8.6	18.0	11.0
皮革・旅行用具	7.7	9.7	12.7	8.4	0.0	0.1	2.5	0.9	0.0	0.0
木材・木材製品	0.2	0.0	0.3	0.1	0.2	0.0	8.8	5.4	22.3	9.5
パルプ・紙類	1.0	0.3	0.8	0.5	0.0	0.1	1.9	1.7	0.2	0.3
繊維製品	51.9	61.3	36.7	21.5	7.4	13.0	4.4	1.3	1.9	2.5
衣類・履き物	0.4	2.8	1.6	3.3	0.5	2.6	0.2	0.1	0.0	0.1
非金属鉱物原料	0.2	0.1	1.4	3.2	6.6	6.1	0.8	0.3	0.2	0.5
貴金属	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卑金属	2.1	2.3	4.9	6.8	0.5	0.3	6.9	2.2	0.8	3.0
機械類	0.4	3.5	11.9	8.7	0.0	0.5	46.4	59.5	10.2	24.1
自動車及び輸送用機器	0.0	2.7	2.9	3.2	0.0	0.1	0.2	0.6	0.0	0.7
精密機械	2.1	2.0	0.7	1.0	0.0	0.3	1.0	1.8	0.2	0.7
その他の製造業品	21.1	9.4	1.9	1.6	0.2	0.5	1.0	0.5	0.4	1.2
芸術・収集品	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特殊取扱品	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
輸入額全体(100万ランド=100%)	35.0	145.0	109.6	1,106.5	33.7	57.7	645.1	1,404.2	357.0	1,080.2

(出所) 表5aに同じ。

輸出構成比の推移 (1992～96年)

(単位：100万ランド，%)

タ イ		インドネシア		フィリピン		香 港		台 湾		中 国		韓 国	
1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996
1.1	2.4	0.0	0.3	0.0	0.6	1.9	2.3	0.1	0.3	0.7	0.4	0.0	0.1
0.0	0.1	0.0	11.7	0.0	1.0	2.9	2.1	0.2	0.7	0.0	2.5	0.4	2.8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.6	0.9	0.5	0.2	22.2	3.8	3.4	2.5	1.4	0.2	1.9	1.4	6.1
5.0	5.1	0.3	4.2	6.2	5.8	17.2	8.3	21.0	21.1	29.4	51.0	25.0	22.1
4.8	6.9	0.6	11.3	14.9	2.8	6.1	9.1	3.1	3.6	1.0	7.2	2.8	3.2
2.1	1.4	0.5	0.2	11.6	2.3	4.0	4.9	1.3	1.1	3.2	0.3	0.0	0.1
1.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	2.1	0.2	0.2	0.0	0.1	0.1	0.5
0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.4	0.1	0.2	0.6	0.7	0.0	0.0	1.1	1.3
22.2	25.5	95.8	32.0	15.1	9.8	4.3	4.5	4.9	6.9	0.5	2.5	4.4	1.5
0.1	0.1	0.0	0.4	0.0	0.2	10.0	3.8	5.4	3.6	4.2	3.6	7.1	3.7
0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.6	1.3	1.7	0.7	0.5	0.0	0.2	0.3	0.2	0.6	0.1	0.3	0.1	0.2
0.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	22.9	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
61.3	45.3	0.2	36.2	49.0	47.9	28.3	30.7	57.5	51.3	9.9	25.3	56.5	56.8
1.1	4.7	0.0	2.1	2.6	5.4	2.8	3.3	0.5	1.3	0.3	2.1	0.2	1.1
0.2	4.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.3	1.9	6.7	50.4	2.5	0.8	0.3
0.1	0.5	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1
0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
338.3	602.0	127.2	755.3	129.8	249.3	1,471.2	2,595.9	2,148.8	3,177.9	498.1	810.4	993.3	2,879.2

輸入構成比の推移 (1992～96年)

(単位：100万ランド，%)

タ イ		インドネシア		フィリピン		香 港		台 湾		中 国		韓 国	
1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996	1992	1996
0.3	1.7	0.4	0.3	1.1	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	1.4	0.0	0.0
49.9	38.6	17.7	19.5	2.6	2.2	0.5	0.4	0.1	0.1	12.7	2.7	0.0	0.0
0.1	0.0	1.0	1.2	0.7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
4.8	3.8	0.6	1.2	53.0	53.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.6
0.1	3.4	0.1	0.3	0.0	0.1	0.9	0.5	0.1	0.0	10.2	5.1	0.6	0.7
0.5	1.9	1.5	2.8	9.8	7.4	5.2	4.3	2.7	4.4	3.3	9.2	4.6	2.6
2.6	6.8	30.0	16.5	0.1	0.0	1.7	2.7	6.0	5.8	1.6	2.3	7.0	9.2
0.7	0.3	0.2	0.3	0.2	0.5	3.4	4.4	1.1	0.6	4.0	2.7	0.5	0.2
0.1	0.3	1.7	4.0	1.1	1.0	0.6	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	0.0	0.0
0.0	0.2	0.8	4.2	0.1	0.1	2.0	1.3	0.8	0.6	0.3	0.5	0.9	0.2
22.4	8.3	26.7	13.8	7.2	2.1	15.2	13.7	18.2	14.9	24.8	13.4	31.7	11.2
1.3	2.0	4.6	12.7	5.0	3.7	5.4	9.9	2.5	0.9	9.6	13.2	4.0	0.5
1.0	2.5	10.6	5.7	0.3	0.7	3.7	2.4	0.9	0.8	2.3	3.6	0.7	0.3
0.1	0.2	0.0	0.0	0.4	0.0	0.8	0.6	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1
0.4	2.6	0.7	2.3	0.3	1.1	6.1	6.7	7.0	7.0	4.8	6.3	5.0	3.6
13.0	23.3	1.1	9.4	15.1	18.6	38.2	38.2	46.2	53.5	11.5	24.1	40.3	39.9
0.1	0.6	0.0	1.4	0.1	1.1	0.6	0.6	4.2	4.1	2.2	1.9	0.6	27.7
0.6	0.8	0.2	0.3	0.1	3.3	8.3	7.4	2.9	2.3	1.5	4.6	2.0	2.3
1.7	2.7	1.9	3.9	2.9	4.2	6.2	6.1	6.0	4.0	9.6	7.7	1.4	0.6
0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.3	0.0	0.1
387.2	719.7	132.8	486.6	52.0	108.6	884.0	1,823.1	1,766.1	3,614.0	652.4	2,474.4	906.0	2,325.6

係が、全く無秩序に構築されているわけではないことも明らかである。南アとアジアの基本的な貿易パターンも、前項でみた三つの国との特徴的な分業関係も、南ア経済が本来、対外的にもっていた比較優位構造の対アジア的、国別偏差としてみるができる。そうした意味では、南アの民主化がアジアとの貿易関係に及ぼした影響について検討する意義は、新たに構築されようとしている分業関係を展望することで、両者の経済関係が今後どのような形で帰結するかという、変化の方向性を探ることにある。

この点に関し、南ア側統計<sup>(26)</sup>に基づく対アジア主要国とのランド建ての商品別貿易構造の推移を表9 a, 9 bに示した。前項までの分析と異なる最大の点は、商品分類がSITC方式ではないということである。各品目を構成する商品が違いため、ここから単純に図2 a, 2 bと比較することはできないが、輸出については、南ア対アジア主要品目である「鉱物」、「卑金属(ベースメタル)」、「貴金属」の動きに注目すべきであり、輸入に関しては、「繊維製品」、「機械類」、「衣類・履き物」や「その他の製造業品」などの軽工業品の動きが重要である。両表から、スリランカを除くアジア諸国と南アとの貿易の伸長が、主要輸出入品目によるものであることを、ここでも確認することができる。とくに「伝統的貿易国」である香港、台湾、韓国の貿易構造は、これら先発のアジアNIEsの経済発展度、ならびに対南ア貿易量の規模を考えるならば、前項でみたいくつかの特徴的な分業関係を含みながらも、後発の「新興貿易国グループ」の今後の対南ア貿易構造の変化、あるいは収斂していく先の一つの形をそこにみることができよう。

## おわりに

本章では、第1に、南アの民主化が南アの対外貿易構造に質的、量的変化をもたらしつつあること、第2に、とくにそれは対アジア貿易において顕著であるということ、そして第3に、その変化は各国レベルでは、量的にも、



質的にも様相を異にしているということ、そして第4に、その程度の差が、アジア各国が対南アとの間にいかに相互補完的な分業関係を構築できるか否かに依存していると思われること、などを明らかにした。これら一連の検討をとおして、筆者の分析視点の根底にあったものは、国際経済社会のなかに突如開いた新生国家南アフリカという鍵穴のイメージである。その意味で、民主化の影響を、少なくとも貿易関係において最も享受しうるのは、その鍵穴に見合う鍵としての貿易構造をどの程度アジア各国がもちうるかということである。そして、その鍵穴の向こうに広がるものこそ、国際経済社会の最後のフロンティア、アフリカ大陸である。残念ながら、本章の検討が十分にこのイメージを実証したとは言い難い。しかし、民主化後の南アとアジア開発地域との経済関係が、かつてないほどのスピードで変化しつつあることは事実である。そして、これら両地域の接近とその意味は、近年の国際経済社会の変容と決して無縁なものではない。

1990年代のアジア地域の急速な経済発展や東側諸国の経済自由化によって、冷戦後の国際競争力地図は大幅な改編期を迎えつつあり、それは東西陣営という政治的な経済ブロックの消滅や南側諸国の産業構造の高度化を通じた、より自由で広範な国際分業関係の構築の可能性と必要性を各国経済にもたらしている。いわゆる「大競争時代」の幕開けである。各国は、これまでもまして国際分業におけるより細かな産業水準での貿易特化と棲み分けを構築するという要請に迫られている。そして、そのことは、これまでの南北間貿易にみられてきたような世界大の比較優位構造による大まかな分業だけにとどまらず、周辺諸国間との分業関係の稠密化と地域の枠を越えた比較優位構造に基づく新たな分業関係を含む、地域内、地域間に張りめぐらされた世界大の分業ネットワークの構築を意味している。

以上、南ア民主化後の対アジア経済関係の変容を、主として民主化以後の南ア対アジア分業関係の変化を中心にみてきた。それはこれら両地域における貿易関係の変化が他の経済諸関係に先行する形で生じつつあるという認識からで、直接投資や間接投資などの資本関係、そして経済協力などの点を軽

視しているわけでは決してない。とくに民主化後、南アへの投資を活性化させているマレーシアの動向<sup>(27)</sup>など、現時点においても注目すべき動向は多々ある。むしろ本章の分析は、そうした分野における追加的検討の必要性を結果として強調するものであり、またその際の基礎となりうるものともいえる。今度の課題としたい。

〔注〕

- (1) 本章でいう「アジア」あるいは「アジア開発地域」は、とくに断らないかぎり一般に使われる地域分類のうち日本を除く「東アジア」、「東南アジア」、「南アジア」を指し、原則として「西アジア」に分類される「中東」や「旧ソ連圏」に属する「中央アジア」は含めない。詳しくは、アジア経済研究所編「通巻400号記念特集 日本における発展途上地域研究 1986～94・地域編」(『アジア経済』第36巻第6・7号, 1995年7月)の分類を参照。
- (2) 日本と南アをめぐっては、以下をはじめとする先行分析がある。たとえば、佐々木健「日本・南アフリカ貿易の現状と課題」(川端正久・佐々木健編『南部アフリカ ポスト・アパルトヘイトと日本』勁草書房, 1992年) 205～224ページや北川勝彦「日本・南アフリカ経済関係の新展開」(川端正久・佐藤誠編『新生南アフリカと日本』勁草書房, 1994年) 163～185ページなどがあげられる。
- (3) IMF, *Direction of Trade Statistics (DOT)*, *Yearbook* (以下, *DOT*), 各年版。ただし, 1997年の数値に関してのみ*DOT*, *Quarterly*, 1998-1 q.を使い, その際第3四半期までの数値をもとに97年の数値を暫定的に推計した。
- (4) UN, *International Trade Statistics, Yearbook*, Vol. II, *Trade by Commodity*, 1995.
- (5) この資料選択に関する最大の留意点は, 前者IMF統計が「南アフリカ共和国」(South Africa) 単独の項目をもつのにに対し, 後者国連統計では「南部アフリカ関税同盟」(Southern African Custom Union: SACU) として南ア, ボツワナ, レソト, ナミビア, スワジランドの貿易が一括して掲載され, 加盟国間貿易は含まれていない点である。ちなみにその出所などに多少問題があるが, 二宮書店『データブック・オブ・ザ・ワールド』1997年版から大ざっぱに把握するとするならば, 1994年の各国の数値を積み上げた際のSACU全体の輸出入に占める南ア以外の加盟国の割合は, およそ輸出の13.5%, 輸入の17.1%であり, そのうち南アとの貿易が輸出の82.4%, 輸入の86.8%を占めているので, 国連統計におけるSACU貿易額の2～3%を除いたものが南アの貿易額ということになる。なお, SACUの詳細については, 以下を参照されたい。林晃史

「南部アフリカ地域機構の再編」(林晃史編『南部アフリカ民主化後の課題』アジア経済研究所, 1997年) 231~270ページ。

- (6) *DOT*, 各年版。原則としては, 1997年時点における各国の属する地域分類を基準に各年版の連結を行ったが, 原表の内容を修正した主な点としては, (1)93年以前の「ソ連」の数値は, すべてヨーロッパ開発地域「その他」とした結果, 現在でも旧ソ連圏に属する中央アジア諸国の一部は「ヨーロッパ開発地域」に含まれている, (2)ヴェネズエラのように中南米に属しながらも70年代にはとくに「石油輸出国」として扱われていたものについては, 中南米に分類計算し直した, (3)80年代以降, 先進国として分類されるようになったスペイン, ポルトガルは70年代から先進地域に分類計算している, (4)その他94年以前の「ユーゴスラビア」には「クロアチア」, 「スロヴェニア」の数値が含まれ, とともに開発地域のヨーロッパに分類した, などである。
- (7) 1991年から93年にかけてランドの対ドル・レートは年平均ベースで約18.4%切り下がっている。このことは, ランド・ベースでの輸出額に変化がなくともドル・ベースでは同程度の輸出減となることを意味するが, 反面, 一般的な意味でランド安は, 南ア輸出に有利に作用するはずである。
- (8) 単位100万ドル未満の取引は切り捨てられるか, その他に含められてしまうので空欄がゼロを示すわけではない。経済制裁など冒頭でも述べたような事情も災いして, その他・不詳の項目の金額が多くあまり便利な資料とは言い難い。この点, 各国の現地資料によって補足したものを後に示すが, とくに台湾, 香港, 韓国, 中国のデータの扱いには注意が必要である。
- (9) Republic of South Africa, *Foreign Trade Statistics*, Vol. II, 1992, 1994, 1996.
- (10) 台湾行政院『進出口貿易統計月報』各巻各号。
- (11) 中華人民共和国国家統計局『中国統計年鑑』1994年, 1996年版。
- (12) 『中国統計年鑑』に初めて対南ア貿易が掲載されるのは, 1993年からである。
- (13) 南アの国別貿易量についてはRepublic South Africa, *Foreign Trade*..., 台湾の対世界貿易については台湾行政院『進出口...』, 中国については中華人民共和国国家統計局『中国統計...』を利用し, その他についてはすべて*DOT*。
- (14) 1995年これら3カ国の対南ア輸出に占める食料品の割合はスリランカ45.6%, フィリピン54.9%, タイ52.8%である。
- (15) UN, *International Trade*...
- (16) *ibid.*
- (17) 国際連合『世界貿易統計年鑑』1994年, 第1巻。
- (18) 二国間の相対的な分業(特化)状況を把握するため「二国間商品別貿易収支(輸出-輸入)/二国間商品別貿易(輸出+輸入)」で求めた。したがって, 世

界に対する貿易特化度を計るための通常の「貿易特化係数」とは異なる。また、各国の生産性や輸出比率などの生産構造も考慮されていないので比較優位構造そのものを意味するものではない。

- (19) ただ本質的な問題として、もともとこの係数には各商品ごとの貿易量の大小そのものを反映させることができないので、統計資料上、当該の商品貿易そのものがゼロであったり、現実的にもきわめて少量であるような場合、その数値は、現実的な分業上の意味をほとんどもたない。したがって、表7では、輸出入ともに南アの対アジア地域全体の貿易量およびアジア各国の対南ア貿易量全体の両方において1%以上のシェアを占める中分類貿易品目の特化係数についてのみ示し、それ以外のものについては「\*」として除外してある。それでも国および商品によっては、その国自体の貿易量が相対的に小さいがために、結果として、極端な特化係数(±1.00に限らず)がでてしまうので、原数値である表6 a, 6 bを参照しながらみていく必要がある。
- (20) しかし、それでもシンガポールの対世界「工業用原料」輸入シェア1.2%に比べれば、4倍近い割合で南アから輸入していることにはなる。
- (21) 中華人民共和国国家統計局『中国統計…』。ただし、1993年のシェア。
- (22) ここでいう「輸出代替」とは、従来の輸出商品の高付加価値化(たとえば、繊維から衣類へ)を通じた国内工業化政策の結果、従来の輸出商品(繊維)の輸出量が新たな輸出商品(衣類)に比べ相対的に低下していくことを意味している。これについては小浜裕久「工業化と工業品輸出」(渡辺利夫編『アジア諸国経済発展の機構と構造』アジア経済研究所、1985年)181~197ページ参照。
- (23) 「特殊取扱品」(SITC93)の係数。1995年の南アの対世界「金(貨幣用、金塊、金鉱を含む)」輸出は62億1400万ドルで、同年の「特殊取扱品」輸出額のおよそ92.7%を占める。
- (24) UN, *International Trade*….
- (25) ちなみに「ゴム」の対世界輸入の56.8%は中南米地域からのものであり、中南米地域からの南ア輸入全体の18.7%を占める。
- (26) Republic of South Africa, *Foreign Trade*….
- (27) たとえば、マレーシア中央銀行(Bank Negara Malaysia, *Annual Report*, 1997)によれば、1994年から97年までの対南ア投資は、国営企業の買収などもあり、4年間で14億3900万リンギッド(およそ5億2000万ドル)で、同期間のマレーシア海外投資の3.7%を占める。